

4月17日発表(現地時間)のブラジルの利上げについて

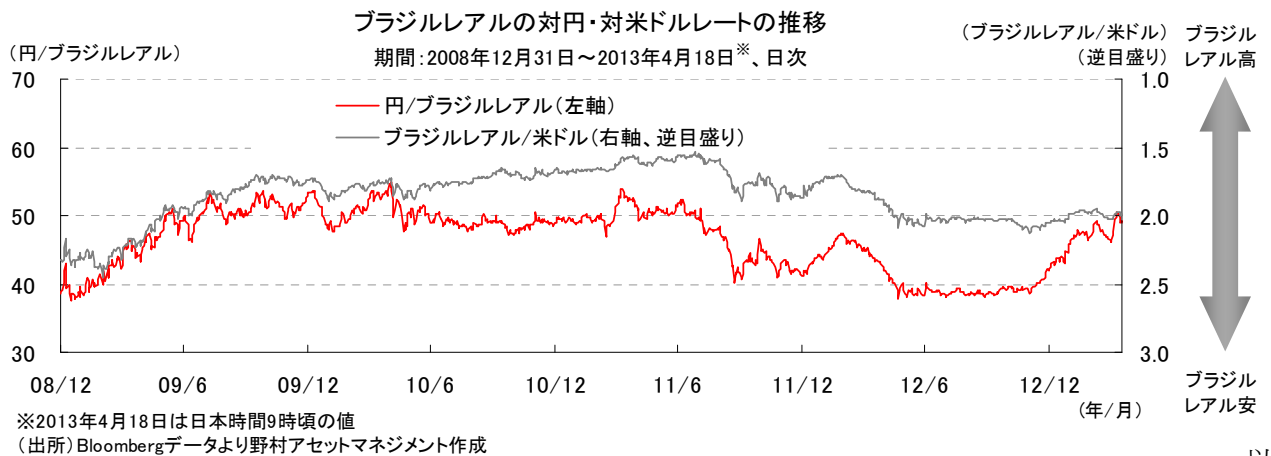
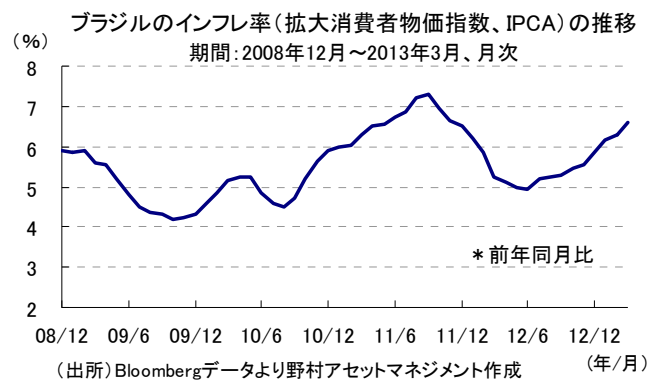
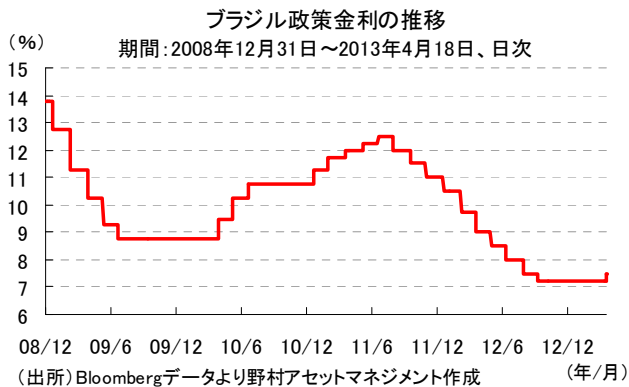
2013年4月17日(現地時間)、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り政策金利を0.25%引き上げ、年率7.5%とすることを決定しました。2011年7月以来の利上げとなります。

同中銀は景気のコト入れなどを目的として2011年8月から合計5.25%の利下げを行ない、2012年10月からは政策金利を過去最低水準となる年率7.25%に据え置いています。2012年10-12月期の実質GDP(国内総生産)は前年同期比+1.4%と依然として低い水準に留まっています。一方、先週発表された3月の拡大消費者物価指数は前年同月比+6.59%と、同中銀のインフレ目標の上限である6.5%を上回ってきており、インフレへの対応が注視されていました。

同中銀のトンビニ総裁は先週、「インフレを容認していない。現在全ての経済指標を注意深く監視しており、金融政策の最善の方向について今後決定する」とインフレ警戒姿勢を強める発言をしており、市場では利上げを示唆していると受け止められていました。

4月18日の外国為替市場では、日本時間9時現在、ブラジルレアルが対米ドルで前日比0.7%、対円で同0.5%のブラジルレアル安となっています。

次の金融政策決定会合は2013年5月28-29日(政策発表は日本時間5月30日)の予定です。



以上

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。